

先進的あるいは特色ある教育課程	学校名等	課程
「学習評価の充実」	群馬県立太田女子高等学校	全日制普通科

ア 取組状況について

① 教育課程

(教育課程編成)

- ・本校は、今年度創立100周年を迎える全日制普通科の女子校であり、1・2年生は6クラス、3年生は7クラス、計19クラス、生徒数は754名である。
- ・2019年度から2年間、県のGアッププロジェクト(県独自の学力向上事業)の指定校となり、「思考力・判断力・表現力等」を育成するための指導方法や評価方法の研究を進めてきた。

(授業展開)

- ・1コマ65分の授業の中で、生徒間、教師と生徒間でのやりとりや、生徒自身で主体的に考えそれを表現する時間を設けるなどの工夫がされている。
- ・授業の中で、Chromebook やワークシート等を用いて、生徒自身で授業への取組の振り返りを行わせ、形成的評価につなげる取組が始まりつつある。

② 教員の指導力向上

(教員研修)

- ・昨年度、Gアッププロジェクト事業において、「思考力・判断力・表現力」の育成に重点を置いた評価問題を作成した。作成した評価問題を活用して、新学習指導要領における新たな学習評価の理解を進めるための校内研修を実施した。
- ・研修の前半は、新学習指導要領における学習評価について、変更点や概要説明を行った。その後、実際に国立教育政策研究所が示している「知識・技能」「思考・判断・表現」の問題例を参考にし、参加者自身でどの観点を見取る問題なのかを考える時間を設けたのち、ポイントの解説を受けることで、学習評価の3観点についての理解を深めた。
- ・研修の後半は、定期考査で出題する「思考・判断・表現」の問題を作成するための話し合いを行った。

まず、作問を始める前に、これからの指導と評価の進め方についての説明を行った。

研修の活動では、1時間ずつ授業を進め、単元を終えてから試験問題を考え始めるという指導起点の取組から、①目標設定→②指導と評価の計画→③目標を達成するための授業という目標起点の「指導と評価」に変えることを目指した。

参加者は、まず、この単元で生徒にどのような力を身に付けさせたいか、目標を設定し、それを踏まえて、その力を測るための問題を作成した。

- ・毎年、各教科で代表者の授業参観と研究授業を行い、授業改善につなげている。

(外部人材の活用)

- ・群馬県総合教育センターの長期研修員を招き、新たな学習評価について校内研修を行った。

③ 校内組織

- ・校内研修委員会を設け、年に2回の授業アンケートの実施や、授業改善に向けての研究授業及び研修会の企画を行っている。

④ 取組の成果(都道府県)全体への普及・共有方法

- ・昨年度5月に本校保護者あてに公開授業を実施(今年度はコロナの影響で中止)、9月には中学生、保護者対象とした授業公開を行った。
- ・昨年度長期研修員として「学習評価」について研究をしていた本校職員が、県教委の主催する各種講演会にて、本校で実施した校内研修の様子や、本校で今年度行っている実践について発表した。

イ 今後の課題

- ・「指導と評価の一体化」を踏まえた授業改善の取組を実践するために、校内体制を整える必要がある。
- ・各教科等で「指導と評価の一体化」に基づいた「単元計画」を作成して授業を実践する必要がある。